

## ユズエクボ症（仮称）の原因解明と対策



写真 エクボ症の発生果実

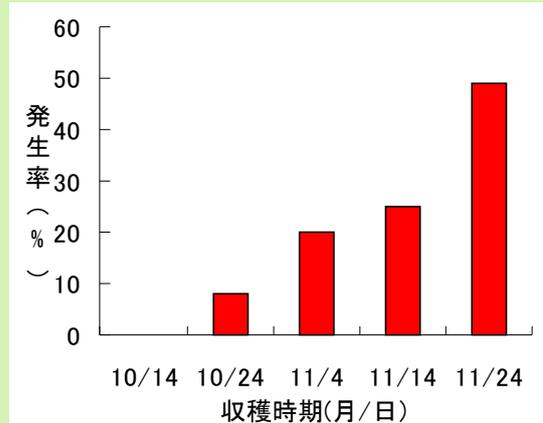


図1 収穫時期がエクボ症の発生に及ぼす影響 (2014年度)

注) 果実は収穫後、7℃で貯蔵した。12/15に常温室に移し、12/22にエクボ症について調査した。

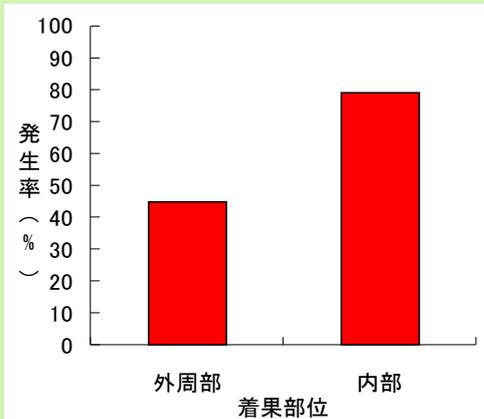


図2 着果部位がエクボ症の発生に及ぼす影響 (2015年度)

注) 果実は11/12に収穫後、7℃で貯蔵した。12/16に常温室に移し、12/22にエクボ症について調査した。

表 高温予措がエクボ症の発生率に及ぼす影響 (2017年度)

処理区	調査果数	指数 <sup>2)</sup>			
		0	1	3	5
高温予措	59	49.2	37.3	11.9	1.7
無処理	85	49.4	20.0	16.5	14.1

注) 果実は11/15に収穫後、一旦5℃の貯蔵庫で保管した。高温予措区は11/17に取り出し72時間35℃の条件下に置いた。処理後、翌日まで室温で降温させた後、貯蔵庫へ戻した。12/20にエクボ症について調査した。

2) 0:発生なし、1:小形(1~2mm)の症状が1~複数個散見、3:小形の症状が広範囲に複数個散見または大形(5mm以上)が1~2個散見、5:大形の症状が広範囲に複数個散見またはそれ以上の果実

冬至用のユズは10月下旬から11月に収穫後、一旦短期間貯蔵され、12月上中旬に市場出荷されます。しかし、この短期貯蔵中にエクボ症(仮称)と呼ばれる果皮が陥没して褐変する障害が発生する場合があります、障害果実は加工仕向けにも回せずに廃棄処分されています(写真)。近年では、冬至出荷果実の約20%で発生した産地があり、発生頻度も高まっていることから、生産者からは対策が強く望まれています。ここでは、エクボ症の発生要因と対策技術について紹介します。

まず、発生要因ですが、収穫時期が遅くなるほど発生が多く(図1)、また、樹冠外周部よりも内部で発生が多いことから(図2)、果

実の熟度や降雨後の濡れ時間などが影響していると考えられました。対策として、貯蔵中の果実の呼吸や養分の消費を抑制するとされる高温予措を実施したところ、無処理区と比べ、発生率に差は見られないものの、明らかに障害程度が軽くなりました(表)。

エクボ症の発生は、年次や園地によって大きく異なり、気象条件や栽培管理が影響していると考えられます。今後は気象との関連を解明するためにデータを蓄積するとともに、エクボ症の発生の少ない健全な樹体、果実の生育を目的として、石灰資材などの効果を検討していく予定です。

(果樹試験場 山下翔人 088-844-1120)